第1章 戦場

中国での終戦

ソ連の参戦で満州は・・・苦難の帰国

富岡秀義さんのお話から

私は、昭和六年（一九三一年）、奉天（現在の瀋陽市）にある南満州鉄道株式会社の獣疫研究所で働くことになり、家畜の伝染病のワクチンや血清をつくっていました。そして、昭和二十年八月、終戦の一週間程前に、奉天から八百～九百キロぐらい離れたチチハル南方の昂昂溪という町で満州国興農部の家畜防疫所を開くために転勤になりました。

八月九日、満州の東からものすごい量のソ連軍が攻めてきました。これは大変だということで、防空壕を掘りました。ところが、十三日に駐屯していた関東軍の司令官から集められて「これが最後の避難列車だから、二時間後に持てるだけのものを持って駅に集合しなさい。」と命令されました。そこで、慌てて、まもなく一歳になる長女と家内を連れて家を出ました。赤ちゃんのおむつ、お米を少し、鍋と茶わんと着替えと、野宿してもいいように、厚い毛皮のオーバーを持ちました。

私たちは汽車に乗せられ、ハルビンに向かいました。通常であれば十時間ぐらいで着くところが、三日かかっても着きません。次々に日本の軍用列車が私たちの列車を追い越して行きました。八月十五日になって、日本が戦争に負けたことを知りました。みんなショックでした。

家内と娘は軍用列車に乗せてもらい、ハルビンにどうにか着いたのですが、着の身着のままで難民生活をしていました。お金もなく、働くしかありませんでした。家内はちょうど友達がいて、豆腐を持ってきてくれましたので、毎朝、「豆腐、豆腐。」と言って売りに行っていました。

○奉天　現在の瀋陽市。表紙裏地図☞

○南満州鉄道株式会社　長春・旅順間の鉄道や鉱山・製鉄などを経営するために、明治三十九年（一九〇六年）、大連に設立された半官半民の国策会社。

○血清　血液が固まる時に分離される黄白色で透明な液体。病気の治療や予防に用いたりする。

○チチハル　表紙裏地図☞

○昂昂溪　表紙裏地図☞

○満州国　昭和六年（一九三一年）に起きた満州事変の際に、日本が中国東北地方（満州）を占領して建国した国。

○ソ連　大正十一年（一九二二年）、世界初の社会主義国として成立した連邦国家。平成三年（一九九一年）に連邦が解体し、現在のロシアやウクライナ、カザフスタンなどの国々に別れた。

○防空壕　航空機による空からの攻撃から身を守るためにつくった穴や地下室。

○関東軍　満州に駐屯した日本陸軍部隊。日本の満州支配の中核的役割を担ったが、昭和二十年（一九四五年）、ソ連参戦によって壊滅した。

○司令官　軍隊・艦隊などを指揮・統率する人。

○ハルビン　表紙裏地図 ☞

○シベリア　表紙裏地図 ☞

○捕虜　戦争などで敵に捕らえられた人。

家内と娘と離ればなれになった私は、四か月間、チチハルの友人の家にお世話になっていましたが、そこでソ連軍に捕まってシベリアに連れていかれそうになりました。捕まっていたときの食べ物は、大きなどんぶりに豆がちょろちょろと浮いているものでした。それを二週間食べていたら、骨と皮になってしまいました。それを見たソ連軍は、シベリアに捕虜で連れていって強制労働させてもだめだと思ったのでしょう、私は帰されました。

それから、さらに四か月たって、私はやっとハルビンに着きました。ハルビンには古い友達がいたので、その人たちが家内と娘を何とかしてくれたのではないかと思って探したら、いたのです。会ったら、一歳過ぎた娘は私の顔が分からずに泣くのでした。

私はその後、現地で大学の教員などをし、昭和二十八年に日本に帰ってきました。そのころ知り合いになり一緒に帰国した満蒙開拓団の中には、五人の子どもを失ったお母さんもいました。

私たちがいた満州では、ソ連が参戦するまでは日本が一番威張っていました。そのかわり治安もよかったのです。しかし、ソ連が参戦するや、軍用列車がどんどん、西部国境のハイラル



イメージ図

避難列車

○強制労働　本人の意思を無視して、権力を用いて無理矢理させる労働。
○満蒙開拓団　満州事変後、国策により満州に送り出された農業移民集団で、合計二十七万人程が入植した。終戦後は、ソ連の参戦で取り残され、多くの犠牲者をだして日本に帰国した。
○軍用列車　軍隊が鉄道を使い、前線への兵士・兵器・物資の輸送などのため運行する列車。
○ハイラル　表紙裏地図☞
○集団自決　一つの集団の人々が、いっせいに自ら決断して自分の生命を絶つこと。
○中国残留孤児　終戦後、満州からの引き揚げの際に肉親と離別し、中国人に育てられた当時十二歳までの日本人をいう。

の方からハルビンの方に向かってくるのです。見るとみんな日本の軍人なのです。「何で戦争が始まったのに軍人が前線から下がって行くのだろう。」と不思議に思いました。軍の命令は天皇陛下の命令ですから、住民を置き去りにしていくのは仕方ないことでした。しかし、満州には軍隊のほか百六十万人の日本人がいました。百六十万人を置き去りにして、一番頼りになる軍隊がいなくなってしまいました。そして、満州は無政府状態になってしまったのです。

そういう中で、置き去りにされた開拓団など満州に住んでいた日本人は逃げまどい、子どもを失うなどの悲劇にあったのです。集団自決した人もたくさんいました。中国人にはひどい目にも遭いましたが、彼らは優しいのです。集団自決でも死ななかった日本人の子どもを育ててくれたのが中国人でした。ひどい目に遭ったのは、かつて中国人の農地や家を日本人が問答無用で取り上げてしまったので、日本人が仕返しされていたのだと思います。

このように中国人に育てられた中国残留孤児が、戦後、三十年以上たってから日本に帰ってきて、「私の名前を教えてください。」「私のお父さん、お母さんは誰ですか。」と言って、テレビに出て親を捜して



イメージ図

満蒙開拓団の家族

いるのです。こういう人が何千人もいるのです。

私は子どものとき日露戦争の本を読んでとても感激し、「大きくなったら、中国大陸に行って仕事をしたい。」と思いました。今でいう高校に行ったときも、「ああ、大陸に行って仕事をしたい。」と思いました。それが夢でした。少年のころは、日本が行った戦争は正しいと、本当にそう思っていました。日本国民はみんな天皇のために働いて、天皇のためには命を捨ててもいいと思い戦争に行きました。

私のころは、明治憲法があり、教育勅語で天皇は神様、国民はみな、天皇陛下の臣民、つまり家来だと教わりました。そして、そのことをまったく疑わずに育ちました。軍隊では「上官の命令は天皇の命令と同様である。したがって、どんなことがあっても命令に逆らってはならない。」と厳しく教育されていました。

それから六十四年が過ぎました。今の憲法は戦争をしないという憲法ですから、みなさんは、戦争の教育を受けていないと思います。教育はとても大切なことなのです。

今、みなさんは、平和の中で暮らしています。私は、どんなことがあっても日本を戦争をする国にしたくありません。今後、日本国憲法を改正することがあっても、第九条だけは改正してはいけないと思っています。

みなさん、平和のことをたくさん考えてください。そして、節目節目に、きょうの私の話、戦争はだめで、平和でなければならないということを思い出してください。

○明治憲法　大日本帝国憲法の通称。

○教育勅語　明治天皇が直接国民に発した国民道徳の根源、国民教育の基本理念。

○臣民　明治憲法のもとでの日本の人民。天皇、皇族以外の者。

○第九条　日本国憲法第九条は日本国憲法の条文の一つで、憲法前文とともに三大原則の一つである平和主義を規定している。

DATA

平成21年度白石区平和事業聴き取り

・平成21年11月17日

・東札幌小学校



富岡秀義（とみおか・ひでよし）さん

・明治44年（1911年）生まれ

・札幌市白石区在住